

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」の提示	どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示(板書)して、生徒一人ひとりにその時間に学ぶ(身につける)ことを明らかにした上で授業を進めている。提示の仕方・説明・タイミングは各教科の工夫にゆだねている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は9割程度で、まずまずではあるが県と比較するとやや下回っているので、更なる徹底が必要である。
授業における「ふり返り」の充実	どの授業も、授業の最後に「本時のねらい」にリンクした「ふり返り」を必ず行い、その授業で学んだ(身につけた)ことを確認させる時間を取っている。ふり返りの仕方(板書・ワークシート等)は各教科の工夫にゆだねている。	「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は6割程度ではあるが、昨年度と比較するとわずかながら増加している。
「学び合いグループ活動」の積極的導入	グループ活動を通して言語活動をより充実させるようにしている。 生徒が目的意識を持って主体的に活動するような協働的な授業を目指して、各教科で様々な形態のグループ活動を研究している。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は8割弱で、昨年度と比較してみてもわずかながら増加している。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「授業中ノートをとっているか」および「グループなどでの話し合いに積極的に参加しているか」という質問に対して肯定的な回答をしている生徒の割合が市に比べて10ポイント以上低かった。

次年度も引き続き「言語活動をさらに充実させて、生徒一人ひとりの学習リテラシーを高め、学力向上を目指す」というテーマのもとに取り組んでいきたい。具体策として、様々な言語活動の中から「書く」「話す」「発表する」の3観点に絞って研究を進めることにより、本校の生徒の傾向である受動的な姿勢を改善し、不足している主体性を育んでいきたい。

また、この3観点を自主研修課題とした「公開授業週間」を持ち、その成果と課題から教師全員が「学力向上改善プラン(授業改善の具体策)」を作成し、途中つけ足しや修正を加えながら、それぞれの授業に反映させていく予定である。